

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	「おいしい！」を言葉に～特産品から考える味の表現～ 【事業費予算 700千円】
事業目的・概要	西区ふれあいまつりに来場した子どもや大人を対象に、イベントを楽しみながら西区の特産品を知ってもらい、そのおいしさを伝えるにはどのようにしたら良いのかを考えてもらうため、食育プロジェクトを行う。 ・イベント内容 ステージ:小・中学生を対象にサツマイモやサトイモなどの食材を当てるクイズや大人を対象として「麩すし」と「蓮の実ご飯」の味を上手く表現してもらって味覚の言語表現を行う。 テントブース:郷土料理「のっぺ」100食の無料試食と郷土食の展示、食材の「味覚表現」や「食感表現」を示した言語辞典、レシピの紹介を行う。 ・実施体制:自治協委員のほか、新潟国際情報大学情報文化学部内田研究室の内田教授及び日本こども福祉専門学校星研究室の星先生、同研究室の学生や郷土料理研究家の丸山久子氏の参加を得て行う。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	・開催日、会場:平成26年10月5日(日) みどりと森のふれあい公園 (ふれ!ふれ!西区ふれあいまつり 内) ・参加者 ステージイベント参加者 20名 (ふれあいまつり来場者 約4,000名)
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	・参加者が西区の特産物についての理解を深められ、楽しみながら食材や言語表現を学ぶことができた。また、その価値を再認識でき、今回のイベントをきっかけとして、家庭などでも継続して食について考えていくきっかけとなった。 ・学(新潟国際情報大学、日本こども福祉専門学校)・官(区役所)・民(自治協委員・住民)の連携によってイベントを無事成功させることができた。 ・西区自治協委員と新潟国際情報大学・日本こども福祉専門学校の学生と一緒に企画、運営を行い、学術・文化の町である西区らしい取組ができた。 ・自治協委員と共に事業を行ったことで地元の学生の視野が広がり、地域を担う若手の育成につながった。 ・自治協委員と西区で学ぶ学生の協働により連携感が醸成され、自治協提案事業として画期的な取組であった。 ・所期の目標を達成する事が出来たと評価したい。 ・アンケート調査の改善、スタッフの役割分担や事前の練習日程の調整、ステージイベントの参加者の募集方法の改善が必要。 ・無料配布の「のっぺ」が好評であり、30分程で終了してしまったため、提供数について検討が必要。
備考	